

審査の結果の要旨

氏名 黒瀬 武史

本論文は、米国の産業跡地の再利用に関して、広範囲に顕在化した土地リスクへの対応のあり方と、都市計画の役割を明らかにすることを目的としている。土壤汚染の存在または存在可能性により再生に支障が生じたブラウンフィールドに関して、連邦・州・自治体による調査制度、経済的技術的支援および計画立案などの政策を対象に、支援制度の考え方とその変遷を明らかにしている。

論文は、序説にあたる第1章と結論を述べる結章のほか、米国のブラウンフィールド再生政策の変遷と現状を分析する第1部と、自治体によるブラウンフィールド再生の実態を明らかにする第2部から成っている。

序章は、研究の目的と方法、既往研究、ケーススタディの対象地である3つの都市（コネチカット州ブリッジポート、マサチューセッツ州ローウェル、ニューヨーク州バッファロー）の選定理由および各都市の概要について述べている。

第2章は、土壤汚染地対応の枠組みとして、1980年の包括的環境責任対処・保障・責任法（スーパーファンド法、以下1980年法）制定時に定められた土壤汚染地の分類を示し、深刻な土壤汚染地の環境管理を担当する連邦政府と、それ以外の汚染地を担当する州政府の役割の違いを明らかにし、同時に自治体の立場を含めて、三者の関係を明示している。

第3章は、米国におけるブラウンフィールド再生政策の変遷を明らかにし、1980年法の限界を考察するとともに、政策の展開過程を三段階に分けて示すことができることを示している。

第4章は、ブラウンフィールド再生に対する公的支援を環境保護行政と都市計画行政の両面から明らかにすると共に、連邦政府と州政府によるブラウンフィールド再生支援諸施策を概観し、それぞれの施策の位置づけをおこなっている。

第5章は、ここまでの議論をまとめて、米国におけるブラウンフィールド再生政策の特長を、土壤汚染の調査・浄化と土地の再利用・再開発のふたつの側面から、制度による支援、経済的な支援、多様な組織の連携型支援に分けて、分析している。その結果、環境保護の推進、衰退工業都市の経済開発、経済的困窮地区の再生という3つの異なる政策目標の間で、多様な再生支援策が展開されてきたことを明らかにしている。

第2部はブラウンフィールド問題を抱える米国の3自治体の再生施策の展開プロセスを実証的に明らかにしている。

第6章では、自治体のブラウンフィールド再生戦略、公的支援利用の実態、ならびにブラウンフィールド再生における空間計画技法の点において分析するにあたって、米国北東部のかつての工業都市を対象としてとりあげることの正当性を論じている。

第7章では、ブリッジポート市を対象に、ブラウンフィールド地区を工業団地として再生を目指して居た2000年代半ばまでと、住宅地化を視野に入れたそれ以降の自治体政策の変遷過程を詳細に明らかにしている。

第8章では、河川沿いのミル・タウンの典型としてローウェル市をとりあげ、地区特性に応じた地域再生手法の選択が戦略的に行われていることを実証的に示している。

第9章では、運河を軸とした発展をとげてきたバッファロー市の施策について、州政府による計画支援（BOA）の具体的な実態を明らかにし、環境保全と都市計画の連携の枠組みのあり方を考察している。

第10章では、上記3都市の事例を相互に比較し、米国におけるブラウンフィールド再生政策進化のプロセスを、公的支援によるブラウンフィールドの土地リスクを分担するという視点から、実証的に明らかにしている。

以上をとりまとめる結章において、米国における立地と汚染状況に応じたブラウンフィールド再生政策の展開のプロセスを整理すると共に、環境保護行政と都市計画行政の新たな関係を、多方面に考察している。

以上、本論文は、米国におけるブラウンフィールド再生政策の展開過程を具体的な土地に即して、都市計画的な視点を含みつつ、経年的に初めて明らかにしている点において、環境保護と都市計画の融合分野のあり方を示す優れた論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。